

桜が丘



友達や上級生、下級生との温かな関わり ～すてきな松崎っ子～

「すてきな松崎っ子」は、学年の枠をこえて、友達や上級生・下級生の「よいところ」や「うれしかった関わり」を発表し合う活動です。この活動をとおして、子どもたちは自分以外のだれか（他者）のよさに気付く目を養うことができるといいなと願って活動が続けています。日々の小さな思いやりや努力を言葉にすることで、子どもたちは「人のよさを見つける視点」を育てることができるでしょう。これは、相手を尊重する姿勢につながっていくと思います。また、自分のよさに気づき「自己肯定感」を育むことができる活動にもなっていると思います。誰かに認めてもらう経験は、「自分にもよいところがある」という実感につながると思います。



今回の「すてきな松崎っ子」でも、温かな声を掛けてもらって嬉しかった子、すれ違う時に笑顔で手を振ってくれたことが嬉しかった子、友達の素晴らしいところを紹介した子など、すてきな松崎っ子がたくさん紹介されました。特に今回はさくらが丘フェスティバルの練習でのエピソードが多かったように感じます。劇の中での間違いを指摘された子が、言ってくれた子に「間違っていると教えてくれてありがとう。」という言葉伝えていました。みんなで何かを創り上げるという中で、友達の注意を素直に受け止めることができる友達関係に温かいものを感じました。この活動は、仲間作りや学年を超えたつながりを構築する機会にもなっています。今後も、全校生で笑顔あふれる松崎小学校を作っていきたいと思います。

実際に見て聞いて学ぶ

～消防署と警察署の見学～【3年生】



3年生は、社会科で消防署と警察署について学習します。人々の安全を守る仕事についての学習です。消防署ではたらく人も警察署ではたらく人も、24時間体制で仕事をしていることを授業で学習しています。実際に、寝泊まりするところや、食事をするとところを見学することで、より理解できたのではないかと思います。人の命を守るための消防車や救急車が特別な車であることも、実際にみて触ること、説明を聞くことで実感できたと思います。このように、体験して学ぶ機会をこれからも大切にしたいです。